

第 1175 回放送分『整形外科疾患』2 回目

ゲスト：田邊 史ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「整形外科疾患」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 田邊 史（たなべ ふみと）ドクターです。

田邊さん、よろしくお願いいたします。

田邊史Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、しばらく様子を見てもいい腰痛と早めの来院を勧める腰痛の違いについてお話しいただきました。

しばらく様子を見てもいい腰痛は、腰だけが痛いという状態。

一方、早めの来院を勧める腰痛は、腰より下の脚やおしりまで痛みやしびれがある状態ということでした。さらにこの場合は、椎間板ヘルニアと腰部脊柱管狭窄症とに分かれるというお話でした。

今週は椎間板ヘルニアについて詳しく教えていただけますか。

田邊史Dr.

はい。先週、椎間板についてはご説明したとおりです。

骨と骨の間でクッションの役割をしているのが椎間板ですが、その椎間板の中身、髄核という組織が外に飛び出してしまう、神経にぶつかった状態が椎間板ヘルニアです。

圧迫された神経に沿って、ベルトから下の足に強い痛みや痺れがきます。

二見いすず

この痛みやしびれというのは、突然くるのですか？

田邊史Dr.

はい。急性発症することが多いです。

ある日突然、前かがみで力仕事をしているときなどに起こりやすいです。

二見いすず

病院を受診したら、どのような検査や治療をするのでしょうか？

田邊史Dr.

MRI でどの場所にヘルニアがあるのかを診断するのが大切です。

治療は、動かすとヘルニアがもっと出ることもあるので、コルセットをして安静にして痛み止めの飲み薬を処方します。

どうしても痛みが強い方には神経ブロック注射をします。

二見いすず

その後は、そのまま良くなるのでしょうか？

田邊史Dr.

ヘルニアの種類にもよりますが、6、7割は自己防衛で自然に吸収されます。

このような場合はたいてい、2週間以内に良くなることが多いです。

2週間を過ぎても痛みが続く場合は、手術になるケースがあります。

二見いすず

椎間板ヘルニアだからといって、すぐに手術というわけではなく、
まずはコルセットや薬で治療してみて、それでも痛みがおさまらなければ
手術ということですね。

手術はどのようなものになるのでしょうか？

田邊史Dr.

内視鏡手術で、確実にヘルニアを摘出します。

痛みを引き起こしている原因を直接取り除くことができるので、
痛みを早くとることができます。手術はおよそ1時間で終わります。

二見いすず

そうなんですネ。

田邊史Dr.

椎間板ヘルニアは40代50代の現役世代に多いです。

仕事にも影響してくるため、腰から下に強い痛みやしびれがある場合は、
早めに来院するようにしてください。

二見いすず

よく分かりました。

今月は、「整形外科疾患」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 田邊 史ドクターでした。

田邊さん、ありがとうございました。

田邊史Dr.

ありがとうございました。